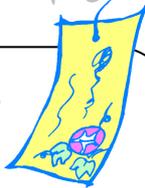


催事報告とお礼

さる 2 月 27 日「梅の香りに誘われて七福神がやってきた！」として結城神社で観梅祈願祭が行われました。伊勢の津七福神を、皆さんに知っていただく機会になりました。友の会会員の方々、お手伝いをありがとうございました。



七夕祭りに七福神がやってくる



日時：平成 25 年 7 月 7 日（日）18 時から

場所：津観音寺（津市大門）

内容：七夕飾りの願いを込めて護摩焚き
あなたの願いを短冊に書いてください。

七福神による御祈祷があります。

是非、七夕の夕べを観音寺で！

いよいよ沙羅双樹の花の見頃です

七福神の辯才天がおられる円光寺（河芸町）に沙羅双樹の花の季節がやってきました。



是非お出かけください。

6 月半ばから （059-245-4132）

6 月 22 日（土）18 時 琴と行燈イベント開催

■最新医学と信仰

柳瀬 恒範

（津市 ヤナセメディカルケアグループ本部）

信仰が、人類発生以来から行われていることは、種々の遺跡から明らかになってきている。日本の歴史を見ても同様であって、信心を疎かにすることはできない。大昔からの医学においても、最近の最新医学においても、信仰を疎かにすることはあり得ない。

昔からの医学と最近の発展した医学を受けるのは、人々であって、数千年前の人々も、現在の人々も、医学治療を受ける折に、医学治療と同時に神仏を信じ尊ぶものだ。信心を忘れる人は少ない。

神と仏に、現在の医学を信じて治療の道をお願いするものである。神と仏、西洋ではキリストをはじめ多くの宗教があるが、信心は全く同じだと思う。昭和時代に入って、日本では新興宗教が一時流行し、医学ではなく、只、新興宗教のみで病を治そうとする風潮があったが、これは正しい道ではない。現代の発達した最新医療に託して、その上に信心をお願いすることが正しい道で、それが最新医学治療を受ける人々の安全な道となるであろう。

現代の最新医学は、数十年間で大きく発展して全く変わってしまった。特に、医療機器の発展は目覚ましいものがあつた。また、昔では考えられなかった臓器移植の時代。自分の臓器が病で全く使えないのを、他人の正常な臓器を頂いて、自分のものと取り替える。これも信仰心がなければ出来ないことである。これらのことを考えてみると、人々は、発展した最新医学を利用し、病を治し元気になりたいと希望を持つが、その上に最新医学を行う医師も、信仰心を持つのも当然のことで、神仏を信じ尊ぶことによって、更なる医学の発展を祈るものであろう。

巡拝者 700 人目 津市本町 小倉宣子さん



4/8 趣味のレクダンスの仲間と

777 人目 鈴鹿市中箕田 杉岡ふささん



5/15 結城神社の観梅がきっかけで

寄稿

■無言の愛語 名古屋市・法持寺住職 川口高風

私は最近、住職をしている法持寺の寺史を出版した。学生時代から夢見ながら資料を集めていたもので、45年以上の歳月を費やして成ったものである。

住職と大学の二足のわらじを履いているため、年中無休で檀務や大学の講義、雑務などに追われ、寺史の執筆だけに打ち込むことはできなかった。

父母は高齢を迎え、その介護に妻や子供とともに協力し世話をした。

父は寺史の刊行を心待ちしており、私が直接説明しながら報告するつもりでいた。しかし、残念ながら完成をみずに三年前に亡くなった。母にも読んでもらったかったが、父に続いて一年後に亡くなった。親孝行は生前中にできなかったが、天国で二人仲良く喜んで見ているものと思っている。

二人が亡くなった後は、両親が一日も早い完成を後押ししているように思え、その支えが大きなパワーとなった。

父は私に多くの時間をくれた。本来ならば、私が勤めなければならぬことも、父が代わってやってくれた。それは私に研究の時間を作ってくれたのである。まさに無言の愛語であった。その恩に報いるため、私は研究論文や研究書の執筆に一生懸命打ち込んだ。その結果の一つが寺史の刊行であり、父への最高のプレゼントであった。本のタイトルの題字は晩年の父に書いてもらっていた。必ず刊行するという約束をしたからである。また、父への感謝と父の思いがいつまでも法持寺の歴史に生きているようにとの思いからである。

■托鉢 奈良県・平等寺住職 丸子孝法

昭和46年の秋、師匠が遷化する前「托鉢してでも本堂を建ててくれ」と私に望まれた。24歳の私は途方に暮れた。明治の廃仏毀釈により全廃し、廃材で造られた



本堂は百年を経過していた。托鉢は頭陀行といって食りを捨てる修行である。快く喜捨する人もあれば、つっけんどんにお断りの時もある。いやむしろお断りの場合が大切である。こちらに少しでも食りの心があれば気まずさが残るだけ。「感謝の心がまわりを幸せにする」これは真理である。

ただひたすら感謝、感謝。正に釈尊最後のご遺言の教え「不戯論」（証りて分別を離れること）の実践である。おかげさまで16年托鉢が続き、師匠の17回忌に夢にみた本堂・鐘楼堂・鎮守堂・寺務所翠松閣が完成、ありがたくも大本山永平寺の丹羽禅師ご親修で落慶法要が営まれた。めずらしくもNHKで全国に放送された。しかし人間の食りの心はなかなかの代物。これからが本当に大変だ。

■ラーニング バイ ドゥーイング

飯南郡飯高町・雲林寺住職 高橋雅笑

『鳥と卵』という慣用句がありますが、これは原因と結果を考えさせられる言葉で、鶏は親鳥の生んだ卵からこの世に生を享けるのですが、其の卵は？・・・と考えると、限りなく繰り返してもなかなか結論には辿り着かない。ということを書いた言葉です。信仰と信仰心は実にこのことに似ていると思います。



私は第2次世界大戦の引き金になった支那事変が勃発した昭和二年の七夕祭りを小学校二年生で迎えました。この頃は、学校でも地域でも戦勝祈願の催しや行事でお参りしたり祈願祭に参加したりの日々でした。そこでお参りの作法をきびしく教えられたり実践させられたりして身につけ、習慣となり、今も身から離れずに居ます。

ふと気が付くと、神社の前を通るときは徒歩でも、車でも必ず会釈を忘れずに通り過ぎる自分に「ハッ」とします。自分はそのことに驚かされますが、此の事は私達が雲水修行の折、繰り返し繰り返しやっとなんて身につけてきたことに通じるのではないかと思います。

七福神巡り点描

伊勢の津七福神友の会だより 2013. 6

■七福神のご神縁をいただいて



高山神社宮司 多田久美子

師走二日の開創から季節は移り、梅、桜、椿、藤、桐など七社の境内の花々が美しい姿をみせてくれます。次々と花が開花するように多くの方が巡拝されています。

「どちらからおみえですか。」「ようこそのご参拝でした。」・・・と訪ねられる方々に、声を掛けて朱印を押させていただけます。

また、「和尚さんの話がおもしろかった」「お花がきれいだった」・・・と会話も弾みます。

巡拝の方も様々にお話をされています。その中で、年老いて遠くへ行く自信がなくなってきたので、地元で巡拝できるのは有難い、嬉しいと笑顔で話される方もおみえでした。

「神は人の敬によって威を増し、人は神の徳によって運を添う。」と鎌倉幕府の執権北条泰時が制定した御成敗式目にある文句です。

きっと敬意をもって神さまを拝めば「そうか、そうか、よく来たな。」と喜んでくださり、護ってくださる。神さまの御心を頂き、祈ることによって御恵を受け幸せになっていくのでしょうか。

私共奉仕する者にとって、色紙に朱印を押させていただき乍ら、巡拝の方々の笑顔でもって幸せをいただいているように思います。

こうしたことも七福神のご神縁によるものからで、実は当社と七福神の繋がり江戸時代に遡ります。一説に家康公が上野（東京）寛永寺の開祖天海僧正から、人生には七つ福德が大切であると聞き、庶民の守神として七福神を広めたと言われています。

当社名の高山こうざんはご祭神高虎公たかうの諡号しごうよりいただいております。この諡号しごうをつけられたのが天海僧正なのです。少なからぬご縁を思いつつ、ご社頭にてたくさん笑顔をお待ちしております。

■福の神様にお願い

矢川つや子（友の会会員 94歳）

耳をすませば きこえます

“我こそは 恵比須三郎にてせうろう候”
子供の頃はこんなことを言って遊びました。前後の言葉は思い出せず戦争がはげしくなり、福の神のことは忘れていたような気がします。



四天王寺の東堂様が街のさみしさに七福神のお力をかりて津の街があかるくなればと、立ちあがられました。四天王寺には信長公が信心された大黒さまがおわします。福の神々さまが勢揃いされました。

七福神の霊場への道が出来ました。祝いの合掌で平和がつづきます様お祈りいたします。

■「伊勢の津七福神巡り」は心の癒し

田山壽彦（友の会会員）

京都、三河、桑名と各地に七福神巡りがある中、津地域にもと望んでいたところ、昨年十二月、津観音寺にて開創式が催され、これに参列することができました。

年が明けた一月中旬の穏やかな日に妻を伴って、伊勢の津七福神巡りがスタートしました。NHK 大河ドラマで有名になった円光寺で住職の解説を頂きました。初馬寺では恵比須天に併せ馬頭観音にも、近くの四天王寺では取り込んでいたため簡単にお参りを済ませました。津観音寺ではお線香を上げ御真言を唱え寺院の偉大さを感じ、七草粥を頂いたことのある高山神社へむかい藤堂高虎公を偲び、全国屈指の梅苑、結城神社へ梅はまだ硬い蕾ではあるが初春の様な風が頬を撫でていた。

遂に満結願となる榊原地蔵寺に入り、ご住職の先導で般若心経を唱え、講和を戴く。榊原の湯に浸りながら一日の幸せに喜びを感じ取りました。

■七福神詣でを終えて

鈴木育子（友の会会員）

この度のご開創を機に「伊勢の津七福神めぐり」の記事を読み、神々にまつわるエピソードと霊場の歴史の一端を知り興味を持ちました。そして神々の尊名すら正確に知らなかった私が、七福神詣でを思いたちました。

豊穰の神とされている大黒天が軍神でもあり、信長公も祈願されたとか、往時の信長公に想いを馳せながら・・・。寿老神が南極星（カイクス）の化身、南極老人がモデルとの伝説を知りロマンを感じながら・・・。又、辯才天（技芸上達）の「遅すぎましたが、まあ希望を持って」との囁きを耳に・・・。何よりも神々のあの特徴のあるお姿を間近に拝することが出来、幸せな気持ちになりました。そして、神々からは「一番大切なのは、あなた自身の心の持ち方です」と励まされているように思いました。

この「伊勢の津七福神巡り」を企画され、ご開創に尽力されました方々に、心から感謝申し上げます。

- ・咲きそめし 白梅清し 神の園
- ・真青なる 空引き寄せて 枝垂梅

■七福神まいりを完走しました

松田重昭（友の会会員）



高山神社さんで七福神霊場が開創されたことを聞き、私の趣味であるマラソンで七福神を参拝することを思い立ちました。昨年は高山神社での祈願のおかげで、東京マラソン参加の抽選に当選。出場と完走を果たすことができました。そのお礼と、今後も元気に走れるようにと願いをこめてお参りさせて頂きました。

昨年12月の朝、円光寺→初馬寺→四天王寺→津観音寺→結城神社→地蔵寺→高山神社の順に、各所で朱印を頂きマイペースにのんびりと走りました。大変長い距離でしたが、普段走らない土地を走ることで新鮮な気持ちになり、色紙の朱印が増えるのを見て次に進む元気が出ました。定年後に健康の為に始めたウォーキングが、古希を過ぎた今では、こんなに走れるようになったことを大変嬉しく思いました。日が落ちる頃

高山神社で最後の朱印を頂き、心身ともに充実した満願成就となりました。

■榊原地蔵寺の布袋様

谷川まさえ

外は突風で入口のガラス戸はがたがたとゆれています。障子を開けると、本堂の前に咲ききれいな花と布袋様が私達を迎えてくれているようです。



七福神がやってきた！と大きなポスターが貼られて、笑いの止まらないイラストの布袋様はじめ七福神にびっくりしました。

お寺様から七福神様が幸を授けて下さるお話や正しい合掌の仕方を教わりました。

私達は感謝の気持ちいっぱいでも多くの人に紹介して幸せになってほしいと願うばかりです。

お寺様の願いは家族一同仲良くして健康と交通安全などなどを・・・です。また、榊原の温泉は人の心を温める優しい温泉ですと話してくれました。私達はお寺のことをひとつひとつ実行してこそお参りの意味があると思いました。

夕方には、地蔵寺様とお別れしましたが、いつまでもこの布袋様のそばに居たいと思しながらお茶をいただき、良いひと時を過ごさせていただきました。

私はもう九十才を迎えます。生きて来た人生を振り返るとやはり生かされて居る命を大切に元気に毎日を過ごさせていただくことに感謝し、この残りの人生を大切に七福神様始めお寺様に一生懸命頑張ってお参りさせていただこうと思います。

■伊勢の津七福神 友の会特典（会員証をお見せください）

- ・うなぎのつたや 100円引き
- ・榊原館 日帰り入浴 お茶進呈
- ・谷石材 花筒5%引き
- ・大寿司 アイスクリームなどデザートサービス
- ・はま作 和菓子サービス
- ・松菱 7階「彦兵衛」ランチ700円以上でコーヒー1杯サービス



伊勢の津七福神友の会事務局

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内 059-225-8558

会費振込先（年間1,000円）

郵便振替口座 00820-8-123136 伊勢の津七福神友の会

URL : <http://isenotsu7fukujin>.